

令和5年度〔自己評価報告書〕		学校番号	学校名	校長名
		102	川崎市立 金程小学校	芦刈 竜哉
学校教育目標		今年度の重点目標		
自分のよさを伸ばし、共に支え合い、よりよい社会を創造する 学び続ける子どもの育成		<ul style="list-style-type: none"> ・自立 授業の充実 子どもが主役の授業 ・協働 心の教育の充実 自分も他者も大切にする指導 ・創造 実践的活動の充実 主体的な活動の推進 		
(具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策	
1	自立教育課程 (カリキュラムマネジメント) (GIGA)	<ul style="list-style-type: none"> ・算数・国語のTTは、児童の力の把握、個に応じた指導等に成果があった。 ・学習の理解や定着に困難な児童への個に応じたさらなる支援は必須である。 ・思考力、判断力、表現力を高めていくために、対話的な学習に取り組み、自分の言葉で伝える喜びを感じる子が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数に関して、全学年において児童へのきめ細やかな指導を行うための、学年と少人数指導担当、取り出し指導担当との連携した指導体制が必要となる。 ・国語科で培った対話の力をどの教科においてもまた、日常生活においても使えるように学習を進めていきたい。 ・GIGA端末について、各教科で活用した場面や方法を記録し、次年度に生かしていく。 	
2	自立校内研究・研修 (国語)	<ul style="list-style-type: none"> ・「話す・聞く」のスキルが、ステップアップ表で明確になったことで、対話を通してよい意見や多様な考えを取り入れることができてきた。 ・毎時間の学習の中で、友達考えに触れたり受け止めたりする機会が増え、自分の考えにとどまらない学びの広がりや深まりが見られてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く・話す力がついてきているので、聞いたことを自分の中で整理し、さらにつなげていくことができるようにしたい。 ・語彙を増やしたりよい話型を価値づけたりして、話す力の底上げを図っていきたい。 ・多様な考えを認め合いながら、自分の考えを深めていけるような授業づくりに今後も取り組んでいく。 	
3	協働児童理解の実践 (児童理解) (児童指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育Coを中心とした児童支援体制を継続してきた。 ・共生・共育プログラムや、人権月間、生活アンケート、人権に関する授業などを行い、人権意識の向上と困っていると伝えられることを心がけた。 ・教職員のいじめに対する感度を高め、未然防止や早期発見、早期対応に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育Coを中心に、養護教諭や級外等の連携による児童支援を行った。 ・年3回のいじめに関する授業やSOSの出し方受け止め方の授業を実施したことで、児童が悩みを大人に相談しやすくなっている。しかし子ども同士で自分の思いを伝えることが難しい。 ・個別支援が必要な児童が増え、それぞれのニーズが多岐に渡り、対応することが難しくなっている。また保護者の協力を得ることが難しい家庭もある。 	
4	協働健康教育 (保健管理) (食育・アレルギー対応)	<ul style="list-style-type: none"> ・校医との連携、感染症予防対策、心身の健康相談を実施した。 ・栄養士による食育に関わる学習の実施と、組織的なアレルギー対応を行った。 ・養護教諭による成長に関する授業を行った。 ・養護教諭、栄養士、担任とアレルギー児童の対応策を細かく検討し、実践した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から様々な怪我や事故の未然防止、感染症予防対策などについて、養護教諭が中心となって職員への共通理解を図り、保護者への周知にも努めた。 ・特に感染症予防対策については、校医と相談しながら進めたことが、保護者への理解につながった。 ・アレルギー対応が必要な児童が増えたが、栄養士や養護教諭が中心となり、校医や専門医とも連携しながら、全職員で危機管理に対する意識を高めることができた。また、改善点が見つかった時はすぐに対応策を検討し、柔軟に変更した。 	
5	協働特別支援 (支援教育)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の情報収集、実態把握、個別の指導計画の作成を行った。 ・各種専門機関との連携(特別支援学校、総合教育センター、地域療育センター、通級指導教室等)を図った。 ・学級担任と交流級担任との綿密な連携に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担任がチームとして指導にあたることができた。また、できる限り非常勤やサポーターなどがついて、安全の配慮を行った。しかし、常に1対1対応が必要な児童が複数名いるため、人的配置に苦慮した。 ・特別支援級以外にも個別の支援が必要な児童が増えて、一人一人の対応の仕方が異なるため、十分な支援を行うことが難しかった。 	

6	<p>協働 教育相談 (保護者・地域住民等との連携)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育Coやカウンセラーの役割について広報し、どんな場合に相談や活用ができるのかを周知した。 ・学校行事や授業参観、コミュニティスクール会議等でアンケートを実施したり話し合いの機会をもったりし、地域や保護者の声に積極的に耳を傾けた。 ・学習活動を通し、保護者や地域との連携を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題に学年、支援教育Co、養護教諭などがチームで対応し、教育相談も必要に応じた形でいった。カウンセラーやSSW、地域見守り支援センター等とも連携し、児童や保護者の悩みの解決に向けて取り組んだ。 ・地域の教育力を生かしていることを、学校だより等で保護者にその都度伝えてきた。児童が地域の方への感謝や親しみの気持ちをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援教育Coの役割が周知され、児童や保護者が相談しやすくなってきている。さらにカウンセラーや相談機関の紹介などを積極的にを行い、どのようなことでも相談しやすい体制づくりに努める。 ・学校行事や授業参観等を通して保護者が学校に来る機会を増やし、保護者からの意見を今後の学校運営に生かしていく。 ・地域行事への参加や地域人材との関わりを継続していく。
7	<p>協働 防災・防犯指導 (安全管理・情報発信)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な自然災害等を考慮に入れた避難訓練・防災引き取り訓練、交通安全指導等を実施した。 ・情報モラルについての授業を計画的に行った。 ・メール配信等で情報発信を行った。 ・安全の見守りについて、保護者や地域への協力をお願いした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な状況を想定した訓練を行った。教職員も児童も、指示がなくても避難行動ができるようにしていきたい。 ・登下校時のけがが多く、その都度全校に安全指導を行ってきた。 ・情報モラル教育について、外部講師を呼んでの学年に合った授業を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も様々な状況を想定し、訓練の内容を充実させる。 ・見守りについて、地域や保護者との連携をさらに進めていく。 ・情報モラルについて、外部講師と連携し、今後も系統的な指導を行っていく。また、今後も保護者に情報モラルの授業参観の機会を設け、家庭でのルールの徹底を意識させていく。
8	<p>創造 教育環境整備 (安全点検・栽培活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の安全点検に基づき、迅速に補修を行った。 ・危険箇所については教育委員会へ連絡し、早急の改善に努めた。 ・地域の学習協力者に、栽培活動や安全マップづくりへの協力をお願いした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所の迅速な修理により児童の安全確保できた。 ・工事が必要なことについては、教育委員会にその都度連絡をして修理を要請している。 ・地域の協力を得て、年間を通して野菜や米作りなどの学習活動を行うことができた。一方見直しが必要なものに関しては、地域と話し合いながら進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事が必要な危険箇所については、引き続き教育環境整備推進室と連絡をとり、早急な対応をお願いしていく。 ・児童が主体的に栽培できるような学習計画の見直しを進める。今後も地域と連携しながら、学習内容に沿った栽培活動を行っていく。 ・地域の安全マップ作りも、地域のパトロール隊の方々の協力をいただきながら今後も進めていきたい。
9	<p>運営機構 (組織運営)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクール会議、金程中学校区学校運営協議会において、学校の現状と課題について検討した。 ・会議の精選や伝達方法の工夫により働き方改革に取り組んだ。 ・教職員が仕事や様々な問題を一人で抱え込むことのないよう、風通しのよい職場づくりに努めた。特に、管理職は話しやすい雰囲気づくりを心がけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ委員の方々に授業参観をしていただき、金程小の児童のよさや課題について、教職員とともに話し合うことができた。 ・心理的に不安定であるなど、個別に対応する必要がある児童が増え、勤務時間外の面談やケース会議を行わざるを得ない場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校ということもあり、個々の教職員の力をどう効率的に割り振るかはとても重要である。学校の重点課題を整理して学校運営機構の構築を図る。 ・ミドルリーダー・学年主任の育成に力を入れ、それぞれが責任をもって仕事に取り組めるように助言する。 ・教職員の健康を守るため、休みたいときに休めるような協力体制をつくる。業務の見直しを行い、相談しやすく安心して働ける職場づくりを今後も目指す。 ・教職員同士や保護者との連携を日頃から密にしていく。
<p>学校関係者の評価</p>		<p>学校運営のまとめ</p>		
<p>本校はコミュニティスクールとしての実績があり、児童は地域の方と触れ合う機会が多いことから、地域に愛着をもっている。コロナ禍でできない体験や行事も、感染予防を十分に考慮しながら復活してきていることを嬉しく思う。児童の課題として、受け身で指示待ちである児童が多いこと、失敗を恐れ積極的になれないこと、マイナスの経験に弱く傷つきやすいことなどがあげられる。今後も地域からの協力を得て、児童に様々なチャレンジをさせていきたい。強い意見に流されるのではなく、多くの人と関わることでいろいろな意見があることを知り、自分の考えをもつことができるようにさせたい。そして失敗してもよいからチャレンジしてみようと思えるような機会を作っていきたい。そのためにも、学校と地域が協力していくことが大切である。</p>		<p>本校で育てたい3つの力は、①自ら学ぶ力②人間関係形成力③自立的活動力、これらをめざす子どもの姿として言い換えると、①主体的に考える子ども②共に支え合う子ども③自分から行動する子どもとなる。これらを全ての教育活動の軸としている。「主体的に考える子ども」については、系統的に対話をする力をつけたことで、対話を通して学び合う姿が見られるようになってきた。今後はさらに、多様な考えを通して自分の考えを広げたり深めたりしながら思考し、考えを構築していくことができるようにしたい。そのための力を段階的につけていくことができるよう、金程小のグランドデザインを基盤として授業研究に取り組んでいきたい。「共に支え合う子ども」については、「いじめが起きない環境、いじめを許さない指導」について、教職員が人権意識を高めると共に、いじめに関する年3回の授業や人権に関する授業を行い、保護者にも授業を公開して、児童が人とのよりよい関わり方ができるように努めてきた。これからも児童理解に努めるとともに、家庭との協力や他機関との連携を今後も丁寧に行っていきたい。「自分から行動する子ども」については、毎年教職員や地域の方から挙がる「子ども達のたくまさを伸ばす教育」として、人任せにせず自分で自分の行動を判断し実行することができるようにしたい。そのために、行事や委員会活動、異学年交流など、児童の創意工夫が生かせる場で、児童の自己有用感、達成感を味わわせて自信をつけ、困難を乗り越える力を育てていきたいと考える。</p>		